



2025年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年1月10日

上場会社名 株式会社イオンファンタジー

上場取引所 東

コード番号 4343

URL <https://www.fantasy.co.jp/>

代表者(役職名) 代表取締役社長

(氏名) 藤原 徳也

問合せ先責任者(役職名) 取締役兼常務執行役員 管理統括兼
リスクマネジメント担当

(氏名) 井関 義徳 (TEL) 043 (212) 6203

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年2月期第3四半期の連結業績(2024年3月1日~2024年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年2月期第3四半期	63,968	7.5	2,623	58.4	1,979	△14.8	△1,148	—
2024年2月期第3四半期	59,486	12.7	1,656	—	2,324	555.9	341	—

(注) 包括利益 2025年2月期第3四半期 △1,189百万円(—%) 2024年2月期第3四半期 △187百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年2月期第3四半期	△58.11	—
2024年2月期第3四半期	17.30	17.29

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年2月期第3四半期	57,675	7,171	12.0
2024年2月期	52,303	8,541	15.9

(参考) 自己資本 2025年2月期第3四半期 6,910百万円 2024年2月期 8,297百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年2月期	—	5.00	—	5.00	10.00
2025年2月期	—	5.00	—	—	—
2025年2月期(予想)	—	—	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年2月期の連結業績予想(2024年3月1日~2025年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	86,700	6.0	5,700	59.0	4,200	△6.4	1,600	21.7	80.94

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2025年2月期3Q	19,779,925株	2024年2月期	19,771,725株
2025年2月期3Q	2,184株	2024年2月期	2,052株
2025年2月期3Q	19,774,110株	2024年2月期3Q	19,767,738株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 有（任意）

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	8
(追加情報)	8
(四半期連結貸借対照表関係)	8
(四半期連結損益計算書関係)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	11
(株主資本等関係)	11
(セグメント情報)	12
(収益認識関係)	13
(1株当たり情報)	14
(重要な後発事象)	14
独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書	15

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社は、「こどもたちの夢を育み、“えがお”あふれる世界をつくる」というパーパスの実現に向け、新たなビジョンのもと新中期経営計画（2024年～2026年）を策定し、持続可能な社会への貢献と企業価値を高めるべく、事業活動を推進しております。

当第3四半期連結累計期間（2024年3月1日～2024年11月30日）における当社及び連結子会社の連結業績は、売上高639億68百万円（前年同期比7.5%増）、営業利益26億23百万円（前年同期比58.4%増）、経常利益19億79百万円（前年同期比14.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純損失11億48百万円（前年同期親会社株主に帰属する四半期純利益3億41百万円）となりました。各国為替レートが期首から円高に進み、営業外費用に為替差損2億27百万円（前年同期為替差益9億14百万円）を計上するとともに、不採算店舗の整理を大幅に加速させている中国事業の14億5百万円を含む特別損失を15億16百万円計上しております。また、収益力実態を示す償却前営業利益は105億50百万円（前年同期差14億55百万円増）となりました。新業態や戦略的小型店の出店を進めている国内事業が好調に推移し、アセアン事業は計画通りに進捗いたしました。当第3四半期連結累計期間の売上高・営業利益は過去最高を更新しております。国内主要部門は、依然好調なプライズ部門・カプセルトイ部門に加え、メダル部門・時間制遊具部門も堅調に推移しており、第3四半期連結会計期間でも過去最高の売上高を更新しております。アセアン事業は出店の加速による売上拡大を続ける一方、中国事業では経済活動の低迷が長期間続く想定のもと不採算店舗の閉店を加速させております。

当第3四半期連結累計期間は新業態を中心に156店舗を出店する一方、不採算店舗等93店舗（中国56店舗）を閉店いたしました。これらの結果、2024年11月末時点の店舗数は国内754店舗、海外476店舗の合計1,230店舗（直営店1,219店舗、F C 11店舗）となりました。

(国内事業)

国内事業における当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高508億円（前年同期比8.9%増）、営業利益40億93百万円（同81.8%増）と、前年同期から18億41百万円増となり第3四半期連結累計期間としてはともに過去最高を更新いたしました。

当第3四半期連結会計期間では、アミューズメント事業においては飲食併設の大型新業態「Feedy Diner&Arcade」を大阪府茨木市へ初出店し、プレイグラウンド事業では、新業態「ちきゅうのにわ“ぽっぷ”」3店舗を出店いたしました。新業態の売上高はいずれも計画を大幅に上回っております。また、従来から出店拡大を続けている戦略的小型店では、プライズ専門店4店舗、カプセルトイ専門店17店舗を出店しております。既存店の各部門も好調に推移しており当第3四半期連結累計期間の既存店売上高前年同期比は、主力のプライズ部門は111.2%となり、特に強化を続けているお子さま向けのキッズプライズは同124.2%と売上を大きく牽引しております。荒利益率が最も高いメダル部門は、販促活動の強化と投資を継続した結果、同104.2%と順調に売上拡大が続いております。

当第3四半期連結累計期間は74店舗を出店する一方、23店舗を閉店し、2024年11月末時点の店舗数は754店舗となりました。

(アセアン事業)

アセアン事業における当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高95億28百万円（前年同期比20.4%増）、営業利益8億10百万円（同9.9%減）となり、売上高は、第3四半期連結累計期間として過去最高を更新いたしました。主力のプレイグラウンド事業においては当社の強みである「独自の内装や遊具」、「高い安全性」、「スタッフの接客力」を強化し競争力の優位性を確保しております。当第3四半期連結会計期間の新店は28店舗で、成長率を重視しているインドネシア7店舗、ベトナム6店舗と拡大を続けており、インドネシアではアミューズメント事業の「モリーファンタジー」の2店舗目を出店しております。シェア拡大を重視しているマレーシア・フィリピンでは、新たなエリアへの進出や新業態の開発も含め、それぞれ8店舗・4店舗を出店するとともに

に、既存店強化により好調が継続しております。生産性向上を進めるタイでは売上総利益率改善を進めるとともに、3店舗の出店をいたしました。

当第3四半期連結累計期間は、54店舗を出店する一方、14店舗を閉店し、2024年11月末時点の店舗数は317店舗（直営店312店舗、F C 5店舗）となりました。

（中国事業）

中国事業における当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高38億10百万円（前年同期比25.2%減）、営業損失22億79百万円（前年同期営業損失14億89百万円）となりました。

不採算店舗の整理につきましては56店舗を閉店し、年間で約70店舗（年初計画40店舗）の閉店を見込んでおります。既存店においては、経費削減を継続して強化するとともに、アミューズメント区画を縮小し、プレイグラウンドを拡大するなどの店舗活性化を15店舗実施いたしました。また、ROIが高く低リスクの小型店「莫莉活力空間」を25店舗出店し、2024年11月末時点の店舗数は159店舗（直営店153店舗、F C 6店舗）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、160億84百万円となり、前連結会計年度末に比べ31億60百万円増加いたしました。主な内訳は、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であり、売上預け金のうち11月上旬分が翌月に決済されたことによる売上預け金の増加（25億93百万円）、棚卸資産の増加（6億4百万円）であります。

当第3四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、415億90百万円となり、前連結会計年度末に比べ22億12百万円増加いたしました。主な内訳は、新店及び店舗活性化に伴う建物の増加（13億19百万円）及び遊戯機械の増加（8億79百万円）であります。

この結果、総資産は576億75百万円となり、前連結会計年度末に比べ53億72百万円増加いたしました。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、339億41百万円となり、前連結会計年度末に比べ37億11百万円減少いたしました。主な内訳は、国内短期借入金の長期転換に伴う短期借入金の減少（92億30百万円）及び1年内返済予定の長期借入金の増加（24億43百万円）、流動負債その他（主に設備未払金と未払消費税）の増加（15億40百万円）、設備関係支払手形の増加（7億37百万円）、未払費用（主に人件費と賃借料）の増加（5億40百万円）であります。

当第3四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、165億62百万円となり、前連結会計年度末に比べ104億53百万円増加いたしました。主な内訳は、国内短期借入金の長期転換に伴う長期借入金の増加（108億79百万円）であります。

この結果、負債合計は505億3百万円となり、前連結会計年度末に比べ67億41百万円増加いたしました。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、71億71百万円となり、前連結会計年度末に比べ13億69百万円減少いたしました。主な内訳は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上（11億48百万円）、剰余金の配当による減少（1億97百万円）であります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年4月10日に公表いたしました通期の業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,516,588	7,173,270
売掛金	136,357	194,556
売上預け金	※1 959,411	※1, ※2 3,553,078
棚卸資産	2,416,434	3,021,138
その他	1,895,671	2,142,641
流動資産合計	12,924,463	16,084,685
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	5,871,504	7,190,547
遊戯機械（純額）	17,690,783	18,570,468
使用権資産（純額）	4,936,605	4,836,132
その他（純額）	1,798,703	2,208,822
有形固定資産合計	30,297,597	32,805,971
無形固定資産		
のれん	113,358	87,044
ソフトウェア	1,262,921	1,232,236
その他	4,585	4,366
無形固定資産合計	1,380,866	1,323,647
投資その他の資産		
敷金及び差入保証金	4,938,411	4,912,247
その他	2,761,724	2,548,880
投資その他の資産合計	7,700,135	7,461,127
固定資産合計	39,378,598	41,590,746
資産合計	52,303,062	57,675,431

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,862,629	2,098,486
短期借入金	24,200,300	14,969,360
1年内返済予定の長期借入金	811,519	3,254,530
1年内返済予定の長期割賦未払金	573,008	578,072
リース債務	2,261,264	2,237,767
未払費用	1,955,502	2,495,611
未払法人税等	1,029,901	820,115
賞与引当金	516,702	745,736
役員業績報酬引当金	71,476	36,015
閉店損失引当金	269,483	326,040
設備関係支払手形	1,512,723	2,250,463
その他	2,588,209	4,128,988
流動負債合計	37,652,722	33,941,189
固定負債		
長期借入金	268,260	11,148,092
長期割賦未払金	1,068,136	633,946
リース債務	3,479,579	3,366,730
退職給付に係る負債	72,937	98,381
資産除去債務	1,068,056	1,187,059
その他	152,316	128,124
固定負債合計	6,109,287	16,562,335
負債合計	43,762,010	50,503,524
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,810,821	1,822,505
資本剰余金	4,829,464	4,814,027
利益剰余金	3,019,873	1,673,167
自己株式	△4,635	△4,940
株主資本合計	9,655,524	8,304,759
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△1,434,669	△1,475,727
退職給付に係る調整累計額	76,542	81,767
その他の包括利益累計額合計	△1,358,126	△1,393,959
新株予約権	37,947	32,599
非支配株主持分	205,707	228,507
純資産合計	8,541,051	7,171,907
負債純資産合計	52,303,062	57,675,431

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)
売上高	59,486,739	63,968,191
売上原価	52,898,853	55,931,988
売上総利益	6,587,885	8,036,202
販売費及び一般管理費	4,931,409	5,412,402
営業利益	1,656,476	2,623,799
営業外収益		
受取利息	57,438	60,841
為替差益	914,746	—
受取保険金	29,434	54,726
固定資産売却益	589	1,951
預り金受入益	1,986	9,571
リース解約益	48,374	208,713
増値税還付金	45,153	—
その他	37,228	79,539
営業外収益合計	1,134,952	415,344
営業外費用		
支払利息	411,557	534,277
為替差損	—	227,850
固定資産売却損	10,711	10,920
資金調達費用	—	194,280
その他	44,387	92,009
営業外費用合計	466,656	1,059,337
経常利益	2,324,772	1,979,806
特別利益		
減損損失戻入益	※1 63,056	—
閉店損失引当金戻入額	95,658	53,551
特別利益合計	158,714	53,551
特別損失		
閉店損失引当金繰入額	54,037	295,145
減損損失	※2 703,273	※2 1,076,313
店舗閉鎖損失	41,909	144,615
特別損失合計	799,220	1,516,073
税金等調整前四半期純利益	1,684,266	517,284
法人税、住民税及び事業税	793,457	1,354,091
法人税等調整額	535,466	309,348
法人税等合計	1,328,923	1,663,440
四半期純利益又は四半期純損失(△)	355,342	△1,146,156
非支配株主に帰属する四半期純利益	13,361	2,821
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	341,981	△1,148,977

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	355,342	△1,146,156
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△554,370	△48,199
退職給付に係る調整額	11,735	5,225
その他の包括利益合計	△542,634	△42,974
四半期包括利益	△187,291	△1,189,130
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△212,060	△1,184,809
非支配株主に係る四半期包括利益	24,768	△4,320

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

四半期連結財務諸表は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準に準拠して作成しております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

(追加情報)

(重要な会計上の見積り：固定資産の減損)

当第3四半期連結会計期間末において、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した「重要な会計上の見積り：固定資産の減損」について、以下のとおり中国の売上高における仮定を変更しております。

将来キャッシュ・フローの見積りにおいて、中国の現在の事業環境及び今後の業績動向等を勘案し、中国各店舗の売上高の予測について見直しを行っております。具体的には、中国における各店舗の当第3四半期連結累計期間の売上高実績や予算達成率に基づき、中国各店舗の将来の売上高見込額を低減させております。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1. 売上預け金

ショッピングセンターの店舗賃貸人に預けている売上代金であります。

※2. 四半期連結会計期間末日が休日のため増加した主な資産

当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日のため、下記の科目に含まれている翌月に決済された金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年11月30日)
売上預け金	一千円	2,353,363千円

(四半期連結損益計算書関係)

※1. 減損損失戻入益

前第3四半期連結累計期間(自2023年3月1日 至2023年11月30日)

連結子会社であるAEON FANTASY GROUP PHILIPPINES INC及びPT. AEON FANTASY INDONESIAにおいて実施した建物等に係る国際財務報告基準に基づく減損損失の戻入益であります。

※2. 減損損失

I 前第3四半期連結累計期間(自2023年3月1日 至2023年11月30日)

以下の資産グループにおいて減損損失を計上しております。

①減損損失を認識した資産グループの概要

用途	地域	店舗数	種類	金額(千円)
店舗	国内	5	建物等	4,572
			有形固定資産その他	914
			小計	5,486
	中国	50	建物等	184,992
			遊戯機械	200,165
			使用権資産	187,339
			有形固定資産その他	52,774
			ソフトウェア	41,211
			小計	666,483
	マレーシア	1	建物等	2,904
			有形固定資産その他	118
			小計	3,023
	フィリピン	4	遊戯機械	7,471
			有形固定資産その他	577
			小計	8,048
	タイ	3	建物等	2,359
			遊戯機械	4,335
			有形固定資産その他	145
			小計	6,840
	インドネシア	1	建物等	12,455
			小計	12,455
	店舗計	64	店舗計	702,338
その他	フィリピン	-	遊戯機械	935
			小計	935
	その他計	-	その他計	935
合計				703,273

②減損損失の認識に至った経緯

当第3四半期連結累計期間において、営業活動から生ずるキャッシュ・フローが継続してマイナス又は継続してマイナスとなる見込みである資産グループ、閉店の意思決定を行った資産グループ、将来の使用が見込まれない遊休資産グループについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

③減損損失の金額及び主な固定資産の種類ごとの当該金額の内訳

種類	金額(千円)
建物等	207,284
遊戯機械	212,907
使用権資産	187,339
有形固定資産その他	54,530
ソフトウェア	41,211
合計	703,273

④資産のグルーピングの方法

当社グループは事業用資産について、主として店舗を基本単位としてグルーピングしております。

⑤回収可能価額の算定方法

当社グループは資産グループの回収可能価額を使用価値又は正味売却価額により算定しております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自2024年3月1日 至2024年11月30日)

以下の資産グループにおいて減損損失を計上しております。

①減損損失を認識した資産グループの概要

用途	地域	店舗数	種類	金額(千円)
店舗	国内	5	建物等	720
			有形固定資産その他	331
			小計	1,052
	中国	83	建物等	354,176
			遊戯機械	246,815
			使用権資産	352,174
			有形固定資産その他	54,663
			ソフトウェア	47,272
			小計	1,055,103
	マレーシア	7	建物等	6,779
			遊戯機械	1
			有形固定資産その他	582
			ソフトウェア	0
			小計	7,364
	インドネシア	4	建物等	4,172
			遊戯機械	1,079
			小計	5,251
	店舗計	99	店舗計	1,068,770
その他	フィリピン	-	ソフトウェア	7,542
			小計	7,542
	その他計	-	その他計	7,542
合計				1,076,313

②減損損失の認識に至った経緯

当第3四半期連結累計期間において、営業活動から生ずるキャッシュ・フローが継続してマイナス又は継続してマイナスとなる見込みである資産グループ、閉店の意思決定を行った資産グループ、将来の使用が見込まれない遊休資産グループについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

③減損損失の金額及び主な固定資産の種類ごとの当該金額の内訳

種類	金額(千円)
建物等	365,848
遊戯機械	247,895
使用権資産	352,174
有形固定資産その他	55,578
ソフトウェア	54,815
合計	1,076,313

④資産のグルーピングの方法

当社グループは事業用資産について、主として店舗を基本単位としてグルーピングしております。

⑤回収可能価額の算定方法

当社グループは資産グループの回収可能価額を使用価値又は正味売却価額により算定しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)
減価償却費	7,416,194千円	7,903,391千円
のれんの償却額	22,981	23,364

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)

1. 配当金支払額

2023年4月12日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

- | | |
|------------|------------|
| ① 配当金の総額 | 98,834千円 |
| ② 1株当たり配当額 | 5円 |
| ③ 基準日 | 2023年2月28日 |
| ④ 効力発生日 | 2023年4月27日 |
| ⑤ 配当の原資 | 利益剰余金 |

2023年10月11日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

① 配当金の総額	98,843千円
② 1株当たり配当額	5円
③ 基準日	2023年8月31日
④ 効力発生日	2023年11月2日
⑤ 配当の原資	利益剰余金

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2024年3月1日至 2024年11月30日)

1. 配当金支払額

2024年4月10日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

① 配当金の総額	98,848千円
② 1株当たり配当額	5円
③ 基準日	2024年2月29日
④ 効力発生日	2024年4月26日
⑤ 配当の原資	利益剰余金

2024年10月9日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

① 配当金の総額	98,879千円
② 1株当たり配当額	5円
③ 基準日	2024年8月31日
④ 効力発生日	2024年10月31日
⑤ 配当の原資	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年3月1日至 2023年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	国内	アセアン	中国	計		
売上高						
外部顧客への売上高	46,478,942	7,913,746	5,094,050	59,486,739	—	59,486,739
セグメント間の内部売上高 又は振替高	156,205	—	—	156,205	△156,205	—
計	46,635,147	7,913,746	5,094,050	59,642,944	△156,205	59,486,739
セグメント利益又は損失(△)	2,251,821	899,109	△1,489,421	1,661,509	△5,033	1,656,476

(注) 調整額は、セグメント間取引消去等によるものであります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間に、「国内」セグメント5,486千円、「アセアン」セグメント31,303千円、「中国」セグメント666,483千円の減損損失を計上しております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント				調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	国内	アセアン	中国	計		
売上高						
外部顧客への売上高	50,629,112	9,528,930	3,810,148	63,968,191	—	63,968,191
セグメント間の内部売上高 又は振替高	171,282	—	—	171,282	△171,282	—
計	50,800,394	9,528,930	3,810,148	64,139,473	△171,282	63,968,191
セグメント利益又は損失(△)	4,093,067	810,102	△2,279,683	2,623,486	313	2,623,799

(注) 調整額は、セグメント間取引消去等によるものであります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間に、「国内」セグメント1,052千円、「アセアン」セグメント20,157千円、「中国」セグメント1,055,103千円の減損損失を計上しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第3四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)

(単位: 千円)

	報告セグメント			
	国内	アセアン	中国	合計
遊戯機械売上高	38,172,684	7,036,660	4,326,718	49,536,064
商品売上高	7,689,672	859,531	767,331	9,316,535
委託売上高	79,479	17,553	—	97,032
その他	537,106	—	—	537,106
顧客との契約から生じる収益	46,478,942	7,913,746	5,094,050	59,486,739
外部顧客への売上高	46,478,942	7,913,746	5,094,050	59,486,739

当第3四半期連結累計期間(自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)

(単位: 千円)

	報告セグメント			
	国内	アセアン	中国	合計
遊戯機械売上高	42,195,305	8,464,118	2,881,581	53,541,006
商品売上高	7,682,131	981,845	928,566	9,592,543
委託売上高	83,933	82,966	—	166,900
その他	667,741	—	—	667,741
顧客との契約から生じる収益	50,629,112	9,528,930	3,810,148	63,968,191
外部顧客への売上高	50,629,112	9,528,930	3,810,148	63,968,191

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益又は 1株当たり四半期純損失(△)	17円30銭	△58円11銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)(千円)	341,981	△1,148,977
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)(千円)	341,981	△1,148,977
普通株式の期中平均株式数(株)	19,767,738	19,774,110
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	17円29銭	—
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	13,713	—
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四 半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結 会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(注) 当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2025年1月9日

株式会社イオンファンタジー
取締役会 御中有限責任監査法人トーマツ
東京事務所指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 武 井 雄 次指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 五 十 嵐 大 典

監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられている株式会社イオンファンタジーの2024年3月1日から2025年2月28日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2024年9月1日から2024年11月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2024年3月1日から2024年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準に準拠して、株式会社イオンファンタジー及び連結子会社の2024年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータ及びHTMLデータは期中レビューの対象には含まれていません。